# 風土記の丘の花だより10

## 今、そしてこれから見られる植物（9月5日）

ノカンゾウ

　朝、吹く風に秋を感じる季節になりました。でもまだミンミンゼミとツクツクボウシは夏を惜しむかのように鳴いています。
オレンジ色のノカンゾウの花が咲いています。梅雨の頃咲いていたヤブカンゾウと似ていますが、ノカンゾウは一重咲き、ヤブカンゾウは八重咲きです。万葉の昔はどちらも「忘れ草」と呼ばれていました。
　「わすれ草　吾が紐につく　香具山の　ふりにし里を　忘れむがため」という大伴旅人の歌が万葉集に残っています。
　秋の七草の一つのフジバカマが資料館東の坂道沿いに咲いています。七草ではほかにそろそろ盛りを過ぎたオミナエシが万葉植物園に咲いています。おばな（ススキ）は大日山３５号墳で穂を出しています。クズは大池の北の堤などに咲いています。

フジバカマ

ヌスビトハギとともに、アレチヌスビトハギが満開です。両者はよく似ていますが、花の色や、実（豆のさや）や葉の形が違います。じっくり観察してみてください。

アレチヌスビトハギ

　園内ではほかに黄色のオトギリソウ、青いツユクサ、薄紫のヨメナ、紫色のヤブランなどが見られます。また、ハギの花も少しずつ咲き始めています。いくつかの種類があるので、長いこと楽しめそうです。
　万葉植物園の前の坂道のアセビの木の下に生えるとても大きな白い大きなキノコはハマクサギテングタケという毒キノコです。ご注意ください。

# 風土記の丘の花だより11

## 今、そしてこれから見られる植物（9月14日）

木陰で休むと、風が心地よいです。９月も半ばになりました。園内に目立つ花はあまり咲いていません。そんな中でノカンゾウとフジバカマはまだまだきれいです。

　秋の花ヒヨドリバナが咲き始めました。フジバカマに似た白い花です。茎が細くフジバカマよりヒョロヒョロした感じです。フジバカマの葉は３つに分かれていますが、ヒヨドリバナは１枚です。

ヒヨドリバナ

旧谷山家住宅の東側の庭ではナンカイギボウシが花盛りです。建物を背にして右側です。ユキヤナギの影で見つけにくいです。

ナンカイギボウシ

サンゴジュの木を目印にしてください。その根元に大きな株があります。水色の花です。

ハギの花も少しずつ増えてきました。万葉植物園では花の白いシロバナハギ（シラハギ）と、小さくて円い葉のマルバハギがよく咲いています。続いてツクシハギやミヤギノハギも咲き出しています。一口にハギと言ってもいろいろあります。葉の形や、花の茎の長さなど詳しく観察するとその違いに気づきます。

シロバナハギ

花の茎が枝から長く伸びていて、枝が垂れているのがミヤギノハギで、一番多く、一番わかりやすいハギです。

万葉植物園の展望台のベンチの後ろでヒメジソの花が咲いています。白くて小さな花です。オケラのつぼみがふくらんできました。次の号では花を載せられるでしょうか。

資料館東の坂をのぼって、竪穴住居の反対側を見あげると、キササゲの実が垂れ下がっているのが見えます。茶色が去年のもの、緑色が今年のものです。道端には薄紫のヨメナもきれいに咲いていますよ。

# 風土記の丘の花だより12

## 今、そしてこれから見られる植物（9月26日）

秋のお彼岸が過ぎました。毎年この頃になるとヒガンバナが咲きます。風土記の丘でも色いろなところで開花しています。白いヒガンバナも柳川家と資料館の間などに咲いています。ヒガンバナは曼珠沙華（まんじゅしゃげ）とも呼ばれ、人との関わりの深い植物で、秋の風物詩のひとつです。

前回の「風土記の丘の花だより１１」で紹介させていただいたオケラが２５日に開花しました。万葉植物園に入って左に進んでいただくと、すぐにわかるところに咲いています。オケラは名前こそ面白いですが、絶滅危惧種に指定される珍しく貴重なキク科の植物です。

フジバカマは今を盛りに咲き誇っています。ヨメナも薄紫色の花を咲かせています。ハギもたくさん咲いてきました。ツクシハギ、ニシキハギ、マルバハギなど、よく観察すると違いがわかるので、立ち止まってじっくり眺めて、見比べてみてください。花の柄が短いのはマルバハギです。わかりやすいですよ。
旧谷山家住宅の裏庭では、タイワンホトトギスとハマアザミがつぼみをふくらませています。もうすぐ花が見られそうです。お楽しみに。ノカンゾウやヤブランの残り花もきれいです。
なお、この花だよりは、受付の周辺においていますので、お入り用の方はどうぞお持ち帰りください。

# 風土記の丘の花だより13

## 今、そしてこれから見られる植物（10月10日）

とても涼しくなりました。ベンチに座って秋風に吹かれていると、クヌギの大きなドングリが落ちてきてびっくりさせられます。

この季節、園内には目立った花はあまり咲いていません。でもゆっくり歩いて、じっくり観察すれば、すばらしい花を見つけることができます。

まずは、目立つ花から、

旧柳川家住宅の北側、に面した通路沿いにピンク色の大きな花フヨウ（左上）が咲いています。少し前まではフタトガリコヤガというガの幼虫がいました。黄緑色のきれいな毛虫でしたが、このごろ姿が見えません。どこかで蛹になったのでしょう。

同じく柳川家の玄関前には、薄紫色のシオンが一月ほど前から咲いています。背の高い株がいくつかあります。足元にはタマスダレ（左中）というヒガンバナ科の園芸植物が白い花を咲かせています。隣の旧谷山家住宅の庭では、ピンク色のハマアザミ（左下）も咲いています。

タイワンホトトギスは花茎を長く延ばし、今にも開花しそうです。裏山には濃いピンク色のハナカタバミ（下右）が咲いています。よく見るムラサキカタバミよりも花が大きく、色も濃いので、園芸植物であることが伺われます。

あまり目立たない花では、

薄紫色のヨメナ（左）、万葉植物園には、それに対してムコナとも呼ばれるシラヤマギク（右）が咲いています。ヨメナはたくさん咲いていますが、シラヤマギクは万葉植物園の中ほどの斜面の３株ほどだけです。探してみてください。

春日野に　煙立つ見ゆ　娘子らし　春野のうはぎ　つみて煮らしも（巻１０―１８７９）

訳　春日野に煙が立つのが見える。乙女らがヨメナを摘んで煮ているらしいよ。

実もできてきています。

今はまだ緑色のヤブランの実、クサギの青い実、ガマズミの赤い実、タンキリマメ、トキリマメの黒い実、まだまだいろいろな実がなっています。それらを探しながらのお散歩も楽しいものですね。

# 風土記の丘の花だより14

## 今、そしてこれから見られる植物（10月24日）

ハギやフジバカマの花も終わり、秋の深まりを感じる季節になりました。

旧谷村家住宅の庭でタイワンホトトギスが満開です。ふつう「ホトトギス」と呼ばれますが、正しくはこんな名前です。茎の先から枝分かれする花茎が伸びてたくさんの花を咲かせます。時折黄色いハチみたいな虫が飛んできますが、それはホシホウジャクというガの仲間の昆虫です。ホバリングしながら長い口を思い切り伸ばして花の蜜を吸います。

黄色いツワブキの花もきれいに咲いています。ツワブキはキクの仲間です。花を見ればそれと分かりますね。薄暗いところは好まず、木漏れ日などの日差しのあるところに多く咲きます。万葉植物園ではよく似たカンツワブキもつぼみがあがってきました。

ビナンカズラの実がぶら下がっています。いろいろな所に巻き付くつる草です。実はおもしろい形をしていて、数ミリの小さな球形の実がびっしり固まってピンポン球ほどの大きさです。熟すと真っ赤になります。あと赤い実では、クロガネモチ、ガマズミ、マユミなどが見られます。また花木園のコブシも真っ赤な実を落とし始めました。ムラサキシキブの実も紫色に色づいてきました。サンシュユの実は真っ赤に色づいていますが、修復古墳の下におりなければならないので、興味のある方は行ってみてください。必見です。とてもきれいです。

シイタケが出てきました。シイタケはお店で買うことがほとんどですが、もともと山に生えるキノコです。シイと付いていますが、いろいろな木に生えます。案外身近なキノコなのです。でも「シイタケに似ているなぁ」と思っても、決して持ち帰って食べないでください。よく似た有毒のキノコがたくさんありますからね。

あと、この季節はどんぐり拾いも楽しいですね。大きなクヌギ、細長いコナラ、まん丸いアラカシやシラカシはまだ緑色で木についていますが、そろそろ落ちてくるでしょう。黒いシイの実が落ちていたら、中の白い実をかじってみてください。懐かしい味がしますよ。（松下）

# 風土記の丘の花だより15

## 今、そしてこれから見られる植物（11月7日）

朝夕は寒いくらいに冷える日もあります。ますます秋が深まってきました。
風土記の丘ではまだ紅葉は目立っていませんが、マユミやアキニレの葉が真っ赤に色づいてきました。もうすぐイロハカエデやフウなども色づいてくることでしょう。
今、リュウノウギクがきれいです。
万葉植物園入り口に白い花がたくさん咲いています（写真左上）。このキクは秋の野山に普通に見られる花です。リュウノウとは漢字で書くと「竜脳」で、昔から香料や漢方薬に用いられてきたものだそうです。それによく似た香りがするといいうことで、この名前がついています。

キクの仲間では、コウヤボウキも咲き始めました。（写真左下）でも、この花は、一目見て「あっ、キクの仲間だな」と思う人は少ないでしょう。万葉植物園のいろいろな所に群落をなして生えています漢字で書くと「高野箒」で、昔、高野山では竹を使うことを禁じられていて、お寺の掃除に使うほうきをこの枝で作ったことに由来するそうです。古いはなしなので、真偽のほどは誰も知りませんが、そんな話が残っていることはとても興味深いことですね。
キノコでは前の号でシイタケを紹介しましたが、今回も興味深いキノコを二つ紹介します。

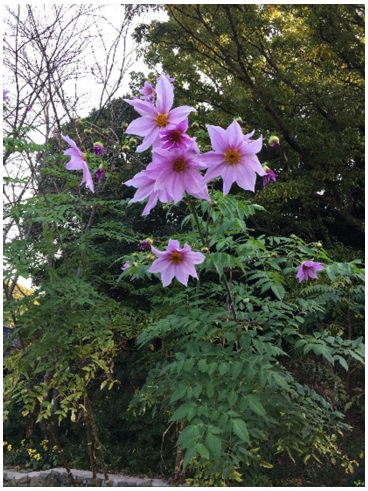
一つ目は少し不気味な名前のチシオタケです。その名のとおり、傷つくと写真のように血のような赤い液体を流します。放置されて朽ちかけた倒木にかたまって生えています。１、２センチほどですが、地味な色なので、注意深く探さないと見つからないかもしれませんね。
二つ目は少し風情のある名前のトガリツキミタケです。
傘の真ん中がとがっていて、色が黄色でまるで、まんまるお月さんのようなのでこの名前が付いています。実際は写真よりも鮮やかな色ですが、１センチていどの小ささなので、気をつけていないと見過ごしてしまいそうです。
いずれにしても、キノコには猛毒を持つものが少なくありません。キノコは見るだけにして、決して食べないようにしてください。　　（松下）

# 風土記の丘の花だより16

## 今、そしてこれから見られる植物（11月17日）

モズの鋭い鳴き声が響きます。先日、園内でも「モズのはやにえ」を見つけました。ウメの木の枝にウシガエルの子どもが突き刺さっていました。モズは小動物を捕らえて、木の枝などに突き刺す習性があります。理由や目的ははっきり分かりませんが、それを「モズのはやにえ」と言います。散歩の途中に見つかるかもしれませんね。

「花だより」なのに、少しグロテスクな写真から話が始まりましたね。では、花に戻りましょう。といっても、今、園内にはそれほど目立った花は咲いていません。ただツワブキの黄色の花、リュウノウギクの白い花は相変わらず目立っています。サザンカのピンク色の花もあちらこちらで開花してきました。サザンカは漢字で「山茶花」と書きますが、おかしいですね、どう読んでも「さんざか」ですよね。長い年月の間に「さんざか」が「さざんか」に変化したということです。



資料館東の坂道では、コウテイダリアの花も目立っています。別名をキダチダリア（木立ちダリア）といい、その名のとおり３，４メートルに成長し、まるで木のようです。もともと中南米原産の植物です。

これと打って変わって、とても小さな白い花が咲きました。谷山家住宅の北、大池沿いの通路に植えられたハマヒサカキの花です。

紅葉も進んでいます。万葉植物園のイロハカエデは少しずつ赤い葉が目立ってきました。資料館南の大きなケヤキも秋の色になってきました。ケヤキはカエデのような赤にはならず、茶色になります。トイレと谷村家住宅の間のイチョウの黄色も日増しに鮮やかになっています。

園内には、ワレモコウやセンブリも咲いています。歩いている道から少しそれて、しゃがんでみると、いろいろなものが見えてきます。

松下

# 風土記の丘の花だより17

## 今、そしてこれから見られる植物（11月28日）

園内の花がだんだん少なくなってきました。そんななかで、やっと咲いた花があります。キノクニシオギクです。万葉植物園に向かって歩いて、左側のウツギの植え込みが切れて、少し空いた所にひとかたまりの株があります。黄色い小さな花が咲いています。このキクは名前のとおり和歌山県の南部の海岸に生える貴重な植物です。菊花展に並ぶような豪華絢爛な花ではありませんが、清楚な花をご観賞ください。

花が少ないので、万葉植物園の紅葉を紹介します。入り口辺りのハギは黄色、ガマズミは赤に色づいています。黄色では他に、イヌビワ、イチョウ、ムラサキシキブ、ネジキ、アカメガシワ、ムクノキなどがあります。赤では他に、マルバウツギ、ハゼノキ、カスミザクラ、ヤマザクラなどがあります。特にきれいに色づいているのは、展望台周辺のイロハカエデです。まさに今が見頃です。

赤い実もよく目立ちます。

ヒヨドリジョウゴの実が万葉植物園入って左のハギの植え込みの垣根になっています。ナナミノキやクロガネモチ、ガマズミなどもきれいです。いちばん目立つのはビナンカズラでしょう。（左写真上）新池の西側、万葉植物園の展望台への通路沿いなどで真っ赤に色づいています。小さな実がいくつもくっついて大きな一つの実になっています。

散歩の途中で見られるのは、ドキっとするウラシマソウの真っ赤な実や、林床を覆うように生えるとげだらけのフユイチゴ（左写真下）の赤い実などです。ウラシマソウはたべられませんが、これは食べられますよ。たくさん摘むとジャムにできますよ。

万葉植物園は、近くで、コンパクトで、散歩や観察に最適です。

通り過ぎずに、是非お立ち寄りください。　　松下

# 風土記の丘の花だより18

## 今、そしてこれから見られる植物（12月8日）

ヤブツバキの赤い花がちらほら咲き始めました。スイセンのつぼみもふくらんできました。でも園内で見られる花は限られていますので、今回は「花だより」にもかかわらず、落ち葉を紹介します。

落ち葉は秋から冬の散歩道には欠かせないものです。それで季節を感じ、風情を味わうことができます。はじめはどんぐりの木の落ち葉です。丸くて大きなどんぐりといえば、ご承知

のとおりクヌギです。園内にはたくさんのクヌギの大木があります。でも、とてもよく似たアベマキというどんぐりの大木もたくさんあります。慣れていないと、木を見てもどんぐりを見ても区別がつきません。ところが、この季節に落ち葉をみれば一目瞭然です。上の写真で左がクヌギ、右がアベマキです。ご覧のようにアベマキの葉の裏は白いのです。ちょっと落ち葉を手にとって眺めて見てください。それから木を見あげてください。

上の３枚の写真はどれもニレ科の木で、左からケヤキ、エノキ、ムクノキの落ち葉です。いちばんギザギザが目立つのがケヤキ、３本の脈が目立つのがエノキ、触るとザラザラしているのがムクノキです。ケヤキは茶色に紅葉しますが、もうほとんど葉を落としています。エノとムクノキは黄色に色づいています。花木園はコブシの葉を敷き詰めたようになっています。小さなアキニレの葉も黄色や赤に色づいて一面に落ちています。落ち葉を邪魔者扱いせず、手にとって慈しんでいただいたいものです。　　松下

# 風土記の丘の花だより19

## 今、そしてこれから見られる植物（12月14）

今年もあとわずかですね。風土記の丘では、こんな季節でも咲いている花があります。本来この時期に咲く花ではなく、春や夏に咲くのに「あれ？こんな季節に・・・」と思わせる花があり ま。今回はそんな花の中でイネ科やカヤツリグサ科などではなく、花びらがあって、ハッキリと「花」と分かるものをいくつか紹介しましょう。

左がゲンゲです。普通「レンゲソウ」と呼ばれます。マメ科の植物です。花木園の北斜面に咲いています。まだまだ「レンゲのじゅうたん」というわけには行きませんが、チラホラと咲いていますよ。花も控えめですね。

同じ所に真ん中のヒメオドリコソウも咲いています。これも群生する草ですが、２，３株が寒そうに花を咲かせています。右のカンサイタンポポも咲いています。セイヨウタンポポなら冬でも咲いていて何の不思議もありませんが、このタンポポはだいたい春に咲く花ですから、びっくりしました。

ほかにも、ハルノノゲシ、トキワハゼ、アメリカイヌホウズキ、ハナイバナ、ムラサキカタバミ、ヒメジョオン、ミドリハコベ、タネツケバナなどがさいています。こんな花のことを、よく「狂い咲き」と言いますが、そんな失礼な言い方はいかがなものでしょう。別に狂ったわけではなく、きっと彼らは「今、この時だ！さぁ、咲くぞ！」という思いで花を咲かせたはずです。それはその花になってみないとわからないことですね。

小さな紅葉

カエデやハゼノキの紅葉はほぼピークを過ぎましたが、こんな小さな紅葉も楽しめますよ。

左はクラマゴケというシダの仲間の紅葉です。道の斜面などに生えていますよ。右はタブノキの冬芽です。これからますますピンクに色づいて来ます。寒い季節でも植物は元気に生きています。たまには立ち止まって眺めてやって下さい。　　松下